

# 農業用水路で生物を保全する器具の開発

3面護岸農業用水路において、多くの生物が生息することができる水辺の環境を作るため、生き物に産卵場、餌場、隠れ場を提供し、水の流れを妨げずに付設することができる器具を開発しました。

現地（熊谷市）に、開発した生物保全器具を10基付設し、生き物の定着効果を調査した結果、器具内には器具外の100倍以上の生物があり、産卵や稚魚が確認されるなど有効性が認められました。また、周辺住民からの評価では、景観にも優れることがわかりました。



生物保全器具の構造



水辺の緑として景観形成にも役立つ

## 生物保全器具の効果(魚類・エビ類)

調査区	種類	尾数
生物保全器具内	18種	17.2匹/m <sup>2</sup>
上記以外	5種	0.16匹/m <sup>2</sup>



## 設置時の注意

石積護岸などの様な水路壁面に、凹凸がある場合、器具が増水の際に壁面に引っ掛かることがあります。また、冬場の水量が少ない時期も水深が5cm以上の場所に設置して下さい。まったく水がない場所では、下段の水草が枯れてしまいます。